

令和7年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第3回地域包括支援に関する会議 会議録

1 開催日時

令和8年3月13日(金) 18:30～20:00

2 開催場所

北九州市役所 3F 大集会室 (ハイブリッド開催)

3 出席者等

(1) 構成員

石田構成員、大丸構成員、甲斐構成員、白木構成員、高城構成員、永田構成員、中村構成員、平野構成員、平原構成員、安田構成員、油布構成員、吉田構成員、和田構成員

(2) 事務局

地域共生社会推進部長、地域支援担当課長、認知症支援・介護予防課長、介護サービス担当課長、地域リハビリテーション推進課長

4 会議の非公開理由

会議は、不開示情報(北九州市情報公開条例第7条)に該当する事項について意見交換するため、非公開とする。

5 会議内容

(1) 報告

- ・サービス・活動事業実施状況について 資料1
- ・地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について
(自己点検項目の見直し)) 資料2
- ・テクノケア北九州について 資料3

(2) 議事

- ・令和8年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務について 資料4
- ・介護予防支援事業所の指定について 資料5

6 会議経過及び発言内容

報告(1) サービス・活動事業実施状況について…資料1

代表 それでは報告事項の1番目からです。サービス・活動事業実施状況について、まず事務局の方から説明お願いいたします。

事務局 報告(1)について、資料1に沿って説明

代表 ありがとうございます。それでは構成員の皆様方から、質問やご意見ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。ございませんか。この訪問コースは、令和6年から7年で、減っていますよね。

事務局 2月末時点では34名というところになっています。

代表 2月末時点では34名というところで、大きくは減ってないということですね。

代表 その他ございませんでしょうか。よろしいですか。特にならなければ、先に進みたいと思います。

報告(2) 地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について (自己点検項目の見直し) …資料2

代表 それでは続きまして地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について、自己点検項目の見直しということで、まず事務局の方からご説明お願いいたします。

事務局 報告(2)について、資料2に沿って説明

代表 ありがとうございます。いかがでしょうか。どうぞ。

構成員 ちょっと教えていただきたいのですが、介護予防ケアマネジメントのこの評価のところがございますよね。23のこの1のFと、24の評価の違いは何なのでしょうかとというのは、この24を拝見すると基本チェックリストで評価をしているのですが、スクリーニングですから、行政の方がするにすれば精度の低い評価法になるのですが23をベースにすべきだと思うのですが。

事務局 そうですね。24番は市町村によって選択していただきたいという項目になっていて、必須の中身にはなっていないのと、これに全く合わせてくださいというよりは、この中身に沿った形で点検をとということなので、内容を、ただ今精査中です。またしっかりとした内容であった

り、根拠、包括がどのように評価しているかといったところもお付けした状態で、7月の会議にはお示しさせていただきたいなと思っております。

代表 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

構成員 3の総合相談支援事業の、7の1のDになるのですかね。留意点のところで関係者と意見交換する機会を設けるなどした上で、すでに十分に分野を横断したネットワークを構築しており新たなネットワークの構築が不要と判断された場合も、項目を満たしているものとして取り扱うとなっているのですけど。十分にネットワークを構築したという判断というか、評価とか何かこう基準というのもあるのですか。

事務局 わかりづらいですね。国がこのように項目と留意点を書いているのですけれども、このままだと、包括もすぐ評価できないだろうなって思うところは、説明文などを書き換えたりしているところです。

構成員 ありがとうございます。

代表 その他いかがでしょうか。ございませんか。

この評価については全体として少し現場の方で書きやすく、省くことは適切に省きながら、作っていただければいいのかなと思います。余りにも詳細になり過ぎてしまうと負担が大きくなるだけという部分が、過去あったかなと思いますので。よろしいでしょうか。

構成員 よろしいですか。今の関連ですけど、例えば、前回自己点検評価 80%未満の項目が多かった介護支援専門員の個別支援を見ましたところ、取り組み内容ページ 16 ページの D ですね。取り組み内容と留意点1、2、3を読んでみますと、大変よくできているなと思います。ここは今のご説明ですと、北九州市の関係者で項目を精査しているということではないのですか。

事務局 はい。こちら15ページとかに示されているものは国から出されたものなので、こちらの書きぶり等は、区の係長等で、今見直しを行っております。

構成員 留意点もよく押さえられているなあと、例えばこの16ページのページを見ても思います。それだけにどのように使えるかなというところをご質問します。この自己点検項目は、実務者がはなから持って仕事ができますか。自己点検評価表を持って仕事するのもおかしいなと思いながらちょっとお尋ねしていますが、どのように運用されるのでしょうか。結果としての評価だけに使うのか、それとも、実務者も運用として評価項目を見ながら仕事をされるのか、この辺の運用状況を教えてください。

事務局 ご意見ありがとうございます。こちらは、国が求めている地域包括支援センターの役割というところになっておりまして、今現在使っている自己点検の項目も十分細かく、丁寧に作られたものではあるのですが、より、状況の変化とか社会状況の変化とかで地域包括に求められているものも少しずつ変わってきておりますので、おっしゃっていただいたように年に1度の点検のときだけ見るのではなく、手元にこれを置いて、こういう項目に気をつけながら業務に当たっていただきたいといったところは、意思統一させていただきたいと思っております。

構成員 ぜひそのように、これは大変教育効果もあるなと思います。ただ1つ1つの項目を、実際やっている立場からしますと、なかなかその途上で結果が出ないというのがあります。これを、結果評価だけでいくのか、プロセス評価でいくのか、少し柔軟に評価表を使っていた方が、いいかなと思いました。いずれにしても、教育指針になるなと思いましたので、この項目の検討に感心いたしましたので、コメント方々、伺いました。ありがとうございます。

代表 その他いかがでしょうか。よろしいですか。

報告(3) テクノケア北九州について …**資料3**

代表 それでは報告の3、テクノケア北九州について説明をお願いします。

事務局 報告(3)について、資料3に沿って説明

代表 ありがとうございます。いかがでしょうか。

構成員 歴史のあるテクノケア北九州が、新しい拠点として、リニューアルされたということで、特に今話を伺いますと、産学連携ラボ或いはものづくり工房の強化によって、機器の技術開発のプロセスがかなり見えるようになったというふうに、伺いました。最近、高齢者もかなり介護ロボットなどにも親しんでおりますので、そういったものに繋がるだろうと思いました。

それともう1点の印象は、資料にもありましたけれども、自宅、病院、介護施設に実際訪問して、そこで聞き取ってその状況と合わせて助言や提言をされる。つまり、これまでなかなか届かなかったユーザーたちの声が、届いた上で、テクノロジーの開発がされる。という意味では、開発がかなり進められると思います。そこでこういったところと関係を持ちたい市民や当事者としては、やはりなかなか出向けないし、相談に行こうと思ってもいけない人達のために、例えばパソコンを使っての相談、或いはパソコンでの相談手段、活用方法が、

どこまで検討されて周知されていくのか、少し見通しも含めて教えてください、横関係の関係者にも周知しやすいと思いましたが、よろしくお願いします。

代表 いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。今回相談のことはちょっと触れておりませんでしたけれども、当然、今、市で1ヶ所ですので、まず知っていただきたいというのがありますけれども、実際の支援っていうのはおそらく個別、個別で、ご訪問しながらの話になろうかと思えます。また今構成員がおっしゃったみたいに、いろんな形での相談チャンネルは持ちたいと思っていますので、電話相談とかに限らず、オンラインでの相談なんかもどしどしするような形での仕組みにしておりますので、そういったところをしっかりと周知して、ここに来なくても、相談できるような体という形を整えていきたいと思えます。今我々は、ビデオ電話なんかすぐ簡単に使える時代になりましたので、中をスマホで映しながら相談などできると思えますので、より、リアルタイムで相談ができるような形でいきたいなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

構成員 はい。ぜひそのように期待しておりますので、周知をお待ちしております。

代表 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

代表 ちょっと私から感想ですけれども、この空間で、少しゆっくり楽しめるような雰囲気はあるのでしょうか。つまり、すごくモデル的には分かります。でも認知症の方なんかを想定したときに、ここでお茶を飲めたり本を読んだり、そういう中から本当のニーズが見えてくるところもあると思えます。こういうモデル的なものと実生活をつなぐといったところ、中間的な空間というのがどこかにあると、より、この専門性が活きるかなということを思いましたが、いかがですか。

事務局 今おっしゃったみたいに、実は5ページのところに書いているように、ちょっと時間の関係で説明を端折りましたが、ここに来て安らいで落ち着いて見ていくという、そういったコンセプトで認知症にやさしいデザインといったところを取り入れておまして、実はこの写真でもわかりますように前は体育館張りのテカテカした、非常に明る過ぎて、落ち着くという面ではどうかなってというのがあったものですから、ちょっとゆとりが出るような落ち着いた空間にしたりとか、緑を入れたりとか、今回様子見てまだそろってないのですけれども。そういった椅子とかも配置しながら、途中で休める空間なんかも入れて、テーブルなども取り入れて、そこでちょっと気楽にミーティングできるように設けております。また、今回、実はこの改修した跡に作業所の喫茶があったので空間が空いているのですが、今後そこを何か取り入れて、ミニ喫茶みたいな形で、言われたように、お茶を飲みながらできるよ

な空間も、今後、プラスアルファで考えていきたいと思っております。また認知症の図書なんかもいろいろ置いておりますので、認知症の部局とも連携して、認知症の方もここで、いろいろアイデアを学んでいただき、或いはここでいろんな知恵を提供していただくなど、そういった連携も、できるのではないかなというようなコンセプトで、一応仕上げていております。

代表 その他いかがでしょうか。よろしいですか。そうしましたら議事の1番目に入りたいと思います。

議事(1) 令和8年度介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務について …資料4

議事(2) 介護予防支援事業所の指定について …資料5

① 事務局説明

- ・介護予防支援事業 新規指定申請事業所 6事業所
- ・介護予防支援事業 指定更新申請事業所 20事業所

② 主な構成員意見

- ・特に質問・意見等はなかった。

※26件の申請については承認された。